

チューリッヒ日本人学校

～ 2年目のスイスの暮らしと日本人学校の取り組み～

チューリッヒ日本人学校 河本 良子

スイスに来て2年目です。見る物全てが驚きだった昨年度に比べるといくらかこちらの生活に慣れてきた部分も多いですが、まだまだ新たな発見の連続です。

今年度のチューリッヒ日本人学校の生徒数は小学部12名、中学部9名の計21名です。私は今年も3・4年生の担任として、明るく元気な子どもたちといろいろなことにチャレンジしています。おもに、私が一緒に勉強しているのは月曜から金曜に通学している全日制的児童・生徒たちですが、土曜・水曜夕方に学びにやってくる補習校も併設されているため、行事は一緒に行うこともあります。5月に行われたチューリッヒ日本人学校運動会はが139名の補習校の児童・生徒だけでなく、現地の子どもたちも参加して、大変盛りあがりました。



【小学校低学年の玉入れ】

ジュラ地方へのサマーキャンプ

7月2日～4日（3・4年生は7月3日～4日の1泊二日）はサマーキャンプでジュラ州を訪ねました。地質時代のジュラ紀（Jurassic）の語源は、この地域にあるジュラ山脈ということで、山脈にはジュラ紀の石灰岩が露出しているようです。ドイツ語圏であるチューリッヒからフランス語圏へ向かうため、総合的な学習では子どもたちも難解なドイツ語に加えてフランス語学習ときて、苦勞しながら一生懸命に取り組んでいます。

この地域はスイスの中でも特に時計産業が発達している地域で、日本でもおなじみの、ロンジン・タグホイヤー、ジラルド・ペルゴ（自社一環生産で有名）、エーベルやカルチエなどがあるばかりか、時計針や文字盤など世界の時計メーカーに部品を売る中小企業が多くあります。わたしたち3・4年生もラ・ショドフォンにある世界規模・内容ともに最大級といわれている時計博物館に行き世界一といわれるスイス時計の精巧な技術を見学してきました。



【 ← 時計博物館での様子 ↑ 】



昔から現在までのさまざまな時計や精巧な作り・美しい飾り時計などの展示がたくさんありました。

これからの取り組み

本校では、どの学年も年に2回は必ず現地の学校と交流をしています。昨年度は6月に現地校を一度訪ね12月に日本人学校に招待をするという形で実施しました。昨年度は、坊主めくりの遊び方をドイツ語で説明してあそんだり、物の形からできた漢字（象形）をドイツ語でスイスの子どもたちに教えたりという、なかなか難しい取り組みでしたが、普段のドイツ語の授業のがんばりや、朝晩毎日の説明の練習の成果もあり、現地の子どもたちに楽しく日本の文化を伝えることができました。現在は6月の交流を終え、今年度、日本のことをより知ってもらうための取り組みの内容についてを子どもたちと計画中です。



【←漢字の授業・熱心に漢字を学ぶスイスの子どもたち！】



スイスの暮らしについて

先日はルツェルンという街で開催されるというヨーデル祭りを見に行ってきました。民族衣装に身を包んだ、ヨーデル愛好家たちが自慢の歌声を披露したり、パレードで街を歩きます。実際にきいたヨーデルは、昔アルプスの少女ハイジのオープニングソングで聞いたヨーデルよりも少し低い、歌声の美しい音色でした。街中にウルスト（ソーセージ）や、ビール、アイスクリームの出店が立ち並び、大変にぎやかでした。



【アルプホルンの演奏風景】

スイスのすばらしさの1つに、産業と自然の融合があげられるのではないかと感じるものがよくあります。それはチューリッヒのような都会から列車に5分も乗れば、「ハイジ」で見たような緑の丘が広がっていたり、やぎ、牛たちに出会えることです。我が町 USTER（ウスター）もチューリッヒ州で3番目といわれる大きな街ですが、10分も歩かないうちにポニーくんや牛くんがのんびりしている風景が見られたり、果樹園が広がっていたりして、身近に自然の豊かさを感じることができます。この環境はどこか鳥取県的环境とも共通する部分が多いような気がします。これからも、自然豊かなこのまちで子どもたちとともに豊かな心を育てていきたいと思っています。

